

第1回 交通政策分科会部会での意見

1 計画の基本的な考え方について

- ・(仮称) 武庫川周辺阪急新駅の設置を見据えた検討

新駅や周辺の地域地区・都市施設については、駅の開設後に想定外の事態とならないよう、都市計画上の位置付けを含めて正面から議論しておく必要があると思っている。例えば、雨天時の車でのアクセスの需要が許容できるか等も留意しておく必要がある。

レンタサイクルは期待できる手法だと思っている。駐輪場面積の縮小や管理負担の減につながる好事例がある。新駅でも、検討する余地もあるのではないかと。

- ・立地適正化計画も意識した施設の配置の観点

他都市では、交通アクセスを含めた空間的配置の議論が不十分なまま、確保できた空間に施設を配置した結果、福祉施設が辺鄙な場所になることも多々ある。福祉施設の配置と交通サービスの連携についても検討していただければと思う。

⇒助言を踏まえ、今後の検討において踏まえていく

2 計画構成案、現状分析について

- ・生活圏や圏域特性を踏まえた分析

伊丹市など隣接市からの通勤がある等、生活圏は他市とも密接に関連していることを踏まえ、市外からの移動を考慮した分析も行うと良い。

また、市内の各駅は異なる特色を持つ後背圏を持っており、これらが組み合わさって尼崎市が構成されているということが浮かび上がってくるような分析を期待している。

- ・クロス分析（分析結果の重ね合わせ）

公共交通にとって、人口密度がかなり重要な指標となる。例えば、日常施設分布図と人口密度を重ねて表示させると、密度の高いところに施設が分布しているか把握でき、市の政策と現状分析がシンクロすると思われる。

人口密度との相関性について、クロス分析を進めていただきたい。

- ・パーソントリップ調査分析

代表交通手段の鉄道は路線別に分けなくてよいか。鉄道駅端末については、新駅近辺は細かく見ると意味があるのではないかと。パーソントリップ調査の実施日の天気もわかれば、晴れの日・雨の日の移動の違いがわかるのではないかと。

- ・観光に関する指標

パーソントリップ調査は都市圏居住者を対象としており、来訪者やインバウンドが含まれていないので、観光局のデータ等も含めて指標を補強しておく方が良いのではないかと。また、武庫川河川公園の利用者数等のデータがあれば、新駅竣工後の効果分析に使えるのではないかと。

⇒助言を踏まえ、今後の分析・検討において活かしていく

3 アンケート調査について

- ・設問における選択肢に対する助言（回答者への配慮）

就業状況における「浪人生」の場合や、利用頻度で休日も入れて週 5 日の場合、平日・休日だけではなく「土曜」はどうするのか。また、駅・バス停留所は「最寄り」ではなく「最もよく使う」の方が良いのではないか。「自動車」については、自分で運転するのか、送迎してもらうのかは、区別しなくてよいか。

⇒助言を踏まえ、調査票の Q2 の各種利用状況等の設問で反映した。

- ・交通手段の回答選択肢の「表記ゆれ」について

「シニアカー・電動カート・電動車いす」が入っている設問と入っていない設問があり、各設問で選択肢を共通にしてもよいのではないか。

⇒調査票全体を通して、「車いす」と「シニアカー（電動カート）」について考え方を整理し、選択肢を分けた。また、助言に関連して、「ご自身で移動できるか」の問についても再検討した（Q1-5「外出状況」）。

- ・家族の送迎状況の把握

尼崎市では子供が小学校に上がる際に転出してしまうという傾向があり、その大きな要因としては教育環境が考えられる。アンケートで塾送迎の状況についても把握し、市の子育て環境向上にも資する計画に繋がれば良いのではないか。

⇒助言を踏まえ、Q2-2「家族等の送迎の有無」として設問を追加した。

- ・シェアリングサービスについて

シェアカーや電動キックボード、シェアサイクルを含むシェアリングサービスが普及してきているが、そうした新たな交通手段をどう計画に反映していくのかという観点から、アンケートに反映する質問項目を検討してはどうか。

⇒助言を踏まえ、Q3「シェアリングサービスの利用意向」として設問を追加した。

- ・アンケート分析時の留意点

サンプル数を増やすことは重要だと思うが、いろいろな方法で増やすと統計としては歪んでいく傾向にある。分析方法としては公共交通利用者・自動車利用者というような分け方にすることが考えられる。結果の使い方や調査方法については留意する必要がある。

- ・回収方法の工夫による対応(助言)

ランダムサンプリングによる回答と公共施設等からの回答を区別できるようにしておき、WEB アンケートで調査内容は同一でも対象者別にリンクを分ければ、どの経路で入ってきたか識別できるため、分析時に役立つのではないか。

⇒指摘と助言を踏まえ、無作為抽出対象者の回答とそれ以外の回収経路を分け、集計時は、まず回答の経路ごとに傾向を確認するなど、統計の歪みに留意した調査・分析とする。

- ・回収率向上に向けた取組について

市民等にアンケートをする場合、回覧板や広報誌は使えないか。あま咲きコイン付与については調査票の表紙に書いて目立たせることも考えられる。自治会長への調査時には何通か用意し、別の人に配布いただいたりご家族に回答いただいたりするなども考えられる。

⇒助言を踏まえ、封筒表紙を修正した。回覧板等による広報は、無作為抽出であることを踏まえ、実施を見送る。

以上